石 川 直 樹 氏 活 動 年 表

令和2年2月改訂　東京都立多摩図書館

年	年齢	略歴・活動（登山・写真学校等）	著書・写真集
昭和52（1977）	0	6月、東京都渋谷区初台で誕生	
平成1（1989）	12		
平成2（1990）	13		
平成3（1991）	14	東京から高知へ**初めてのひとり旅**	
平成4（1992）	15	中学校の短期プログラムで初の海外となるアメリカへ	
平成5（1993）	16		
平成6（1994）	17	**インド・ネパールひとり旅**	
平成7（1995）	18	旅行会社の学生向け小冊子に連載記事執筆	
平成8（1996）	19	カヌーイスト野田知佑氏に手ほどきを受ける	
平成9（1997）	20	早稲田大学第二文学部入学	
平成10（1998）	21	北米大陸最高峰マッキンリー山登頂 アラスカのデナリ登頂	
平成11（1999）	22	ミクロネシアサタワル島で伝統航海術を学ぶ ヨーロッパ大陸最高峰エルブルース山登頂	
平成12（2000）	23	アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ山登頂 東京総合写真専門学校入学 **「Pole to Pole」プロジェクトに参加**	
平成13（2001）	24	南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフに登頂 南米大陸最高峰アコンカグア山登頂 オーストラリア大陸最高峰コジウスコ山登頂 **エベレスト（チョモランマ）登頂、七大陸最高峰登頂世界最年少（二十三歳）記録達成**	
平成14（2002）	25	9.11直後、写真と文章による初めてのルポ取材 インド・アフガニスタン・イラク・アメリカ等で取材 早稲田大学卒業	
平成15（2003）	26	個展「for circumpolar stars　極星に向かって」開催	
平成16（2004）	27	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程進学 神田道夫氏と**熱気球による太平洋横断**、途中で断念	
平成17（2005）	28		
平成18（2006）	29		
平成19（2007）	30		
平成20（2008）	31	東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了 太平洋横断時の熱気球のゴンドラが悪石島に漂着	
平成21（2009）	32		
平成22（2010）	33		
平成23（2011）	34	東日本大震災翌々日から被災地に入り物資を届ける ネパール側からエベレスト2度目の登頂	
平成24（2012）	35	ヒマラヤのローツェ遠征　撤退 ヒマラヤのマナスル登頂	
平成25（2013）	36	ヒマラヤのローツェ登頂 ヒマラヤのアマダブラム北稜遠征　撤退	
平成26（2014）	37	ヒマラヤのマカルー登頂 那覇で「ワークショップ・フォトネシア写真学校」開催	
平成27（2015）	38	フォトアーキペラゴ写真学校第1期開講 ヒマラヤの西端K2&ブロードピーク遠征、撤退	
平成28（2016）	39	知床フォト・プロジェクト「写真ゼロ番地　知床」を立上げ 了は2019年3月）全国6か所巡回開始（終 18年ぶりにアラスカのデナリ登頂 大規模個展「この星の光の地図を写す」	
平成29（2017）	40		
平成30（2018）	41	ヒマラヤのアマダブラム登頂	
令和1（2019）	42	K2遠征、頂上を目前に断念、ガッシャーブルムⅡ登頂 フォトアーキペラゴせとうち写真学校第5期開講 Penクリエイター・アワード2019受賞 ることを初めて体験 ユーコン川を下り、川から国境（カナダ・アメリカ国境）を越え	『Kagoshima Archipelago』（Amaｂlam SLANT） 『THE HIMALAYAS』（OK FRED） 『EVEREST／K2』（CCCアートラボ） 『Gasherbrum Ⅱ』（SLANT） 『まれびと』（小学館） 『EVEREST』（CCCメディアハウス） （翻訳）『ぼくたちはみんな旅をする』（講談社） 『この星の光の地図を写す』（リトルモア） 『日本列島東京』（SUPER LABO） 『極北へ』（毎日新聞出版） 『流星の島』（SUPER LABO） 『Svalbard』（SUPER LABO） 『知床半島　北海道新聞社） 『DENALI』（SLANT） 『ぼくの道具』（平凡社） 『K2　SLANT 『潟と里山』（青土社） 『SAKHALIN』（アマナ） 『世界のともだち　20　フィリピン　（偕成社 『世界のともだち　09　バングラデシュ』（偕成社） 『髪』（青土社） 『国東半島』（青土社） 『宮本常一と写真』（平凡社） 『Qomolangma』（SLANT） 『Maanaslu』（SLANT） 『Makalu』（SLANT） 『Lhotse』（SLANT） 『世界を見に行く。』（リトルモア） 『For Everest　ちょっと世界のてっぺんまで　リトルモア 『COROＮA』（青土社） 『ARCHIPELAGO　集英社 『富士山にのぼる　教育画劇 『Mt Fuji』（リトルモア） 『VERNACULAR』（赤々舎） 『最後の冒険家』（集英社） 『POLAR　リトルモア 『NEW DIMENSION　赤々舎 『いま生きているという冒険』（理論社） 『THE VOID　ニーハイメディア・ジャパン 『全ての装備を知恵に置き換えること　晶文社 『POLE TO POLE　極圏を繋ぐ風』（中央公論新社） 『大地という名の食卓』（教研出版） 『この地球を受け継ぐ者へ　人力地球縦断プロジェクト「P2P」の全記録』（講談社）
令和2（2020）	43		

・著書は単著のみとし、共著は省略した。
・増補改訂版、文庫版は省略した。
・写真集「日本列島」シリーズは、東京のほか北海道・秋田等県別に出版されている。

雑誌連載

- 高校生でも行けるインド
- 大地に生きる人々（『ソトコト』）
- トラベローグ/アーキペラゴ（『Neutral』）
- life knouwledge 石川直樹　未来の知恵（『Paper sky』）
- [表紙写真・扉]（『群像』）
- young climber's eyes and feeling（『岳人』）
- 陶酔の風景（『Quick Japan』）
- ザックに中には本が1冊（『熱風』）
- 原初への旅（『青春と読書』）
- 極北へ（『本の時間』）
- 世界遺産を撮る（『ノジュール』）
- ひとつの島と世界の全て（『なごみ』）
- 風の中へ（『Quick Japan』）
- 地上に星座をつくる（『新潮』）
- みるきくあるく（『暮しの手帖』）
- Kotaba review ノンフィクション（『kotoba』）
- いまヒマラヤに登ること（『考える人』）
- 稀人（『岳人』）
- アジアの山に生きる（『岳人』）

・原則として連載期間が1年以上のものを記載した。
・矢印で連載期間を表した。
・連載のタイトルに続けて、掲載誌名を括弧に入れて記載した。